



麻しん対策の現状

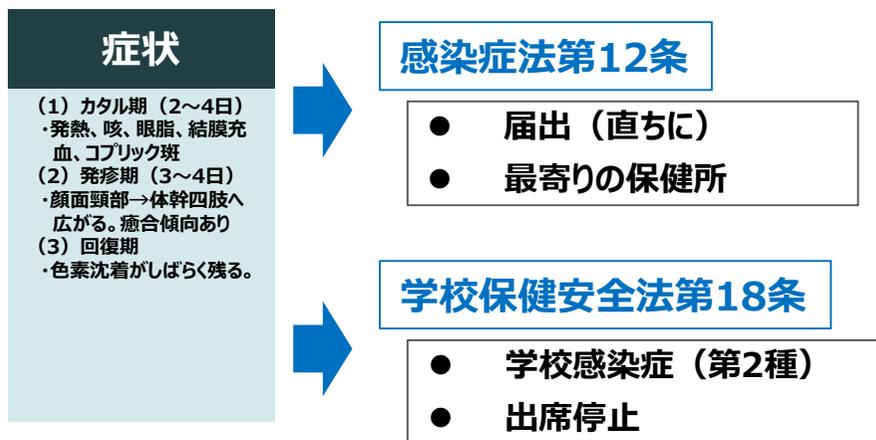
保健福祉部 感染症対策局 感染症対策課

麻疹 (Measles:五類感染症・全数)

概要



潜伏期
● 10～12日 (最大21日)



ポイント

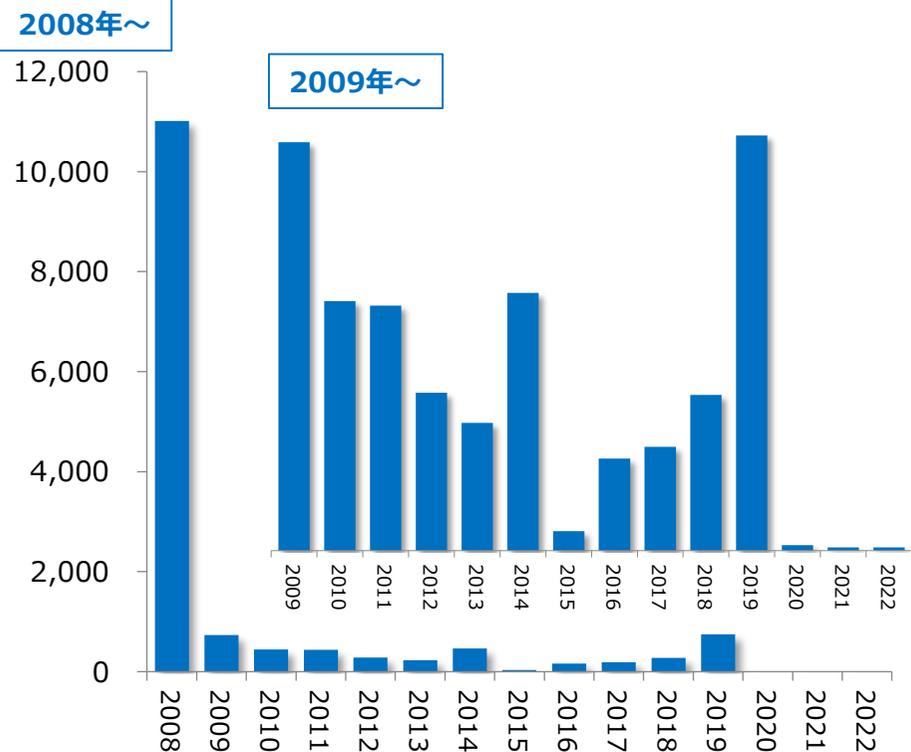
- 特異的治療法はなく、対処療法
- 麻疹は感染症法に基づく感染症発生動向調査による全数把握疾患に指定され、麻疹と臨床診断した時点ですべての医師に速やかに管轄の保健所へ届け出ることが義務づけられている。

感染経路・感染対策

病原体	<ul style="list-style-type: none">● 麻疹ウイルス● エンベロープをもつRNAウイルス
感染経路	<ul style="list-style-type: none">● 麻疹患者と直接接触、飛沫感染可能な範囲内 (患者から2m以内) で患者の咳、くしゃみ、もしくは会話等によって飛沫をあげた可能性、患者から離れていても同一の時間 (麻疹ウイルスは、一旦空気中に出ると、その生存期間は2時間以下と考えられている。) に空間 (麻疹患者が行動した院内、行動した病棟内、行動した階全体、空調が共通の空間すべてを含む。) の共有● 基本再生産数は15.0
行政対応	<ul style="list-style-type: none">● 患者を診断した医師は、直ちに最寄りの保健所に届け出る。学校保健安全法では解熱した後日を経過するまで出席停止。
拡大防止	<ul style="list-style-type: none">● 定期予防接種として1歳児 (第1期) と小学校入学前1年間の幼児 (第2期) を対象として麻疹風疹混合ワクチン接種を実施。● 妊婦や免疫不全者は6日以内に免疫グロブリン製剤の点滴静注を行う。● 入院患者は陰圧個室に隔離。

麻疹 (Measles:五類感染症・全数)

全国

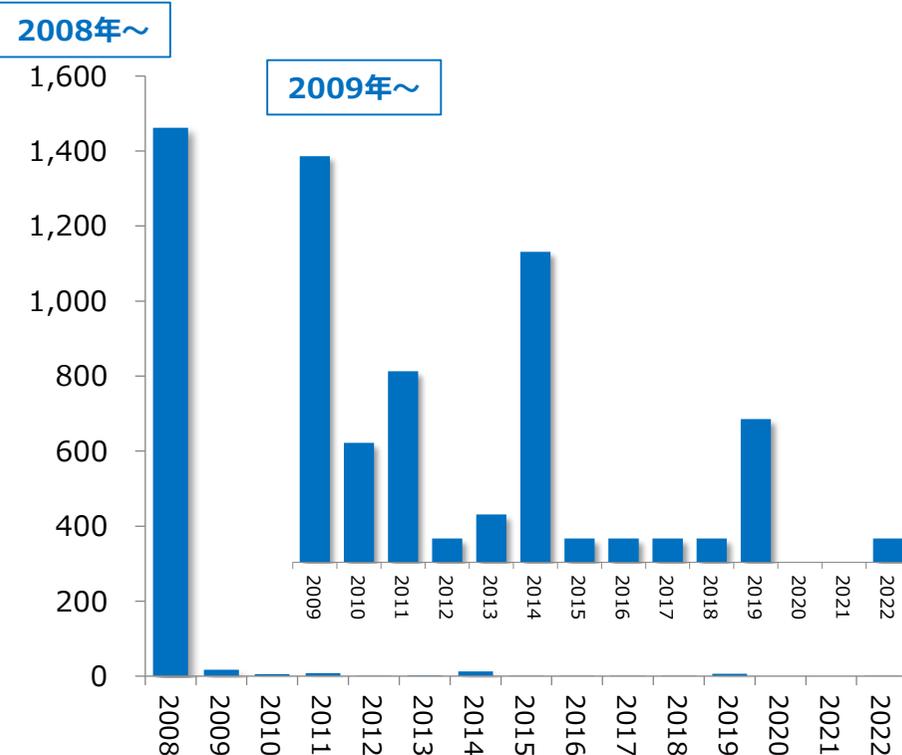


年	2008	2009	2010	2011	2012
報告数	11,015	732	447	439	283

年	2013	2014	2015	2016	2017
報告数	229	462	35	165	186

年	2018	2019	2020	2021	2022
報告数	279	744	10	6	6

北海道



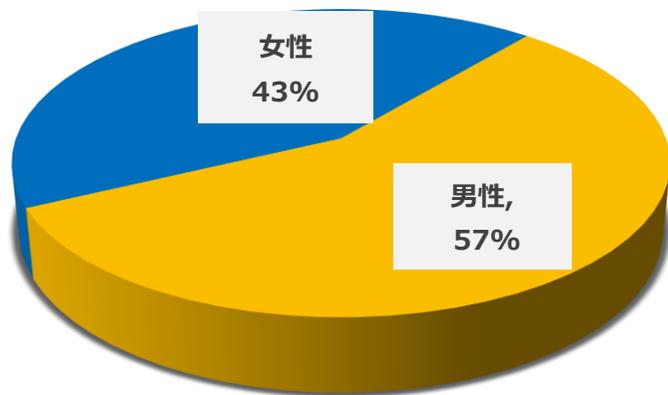
年	2008	2009	2010	2011	2012
報告数	1,462	17	5	8	1

年	2013	2014	2015	2016	2017
報告数	2	13	1	1	1

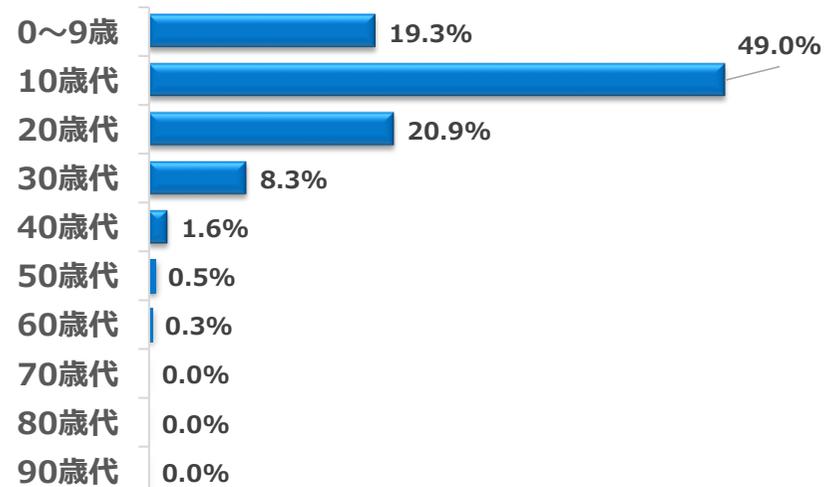
年	2018	2019	2020	2021	2022
報告数	1	6	0	0	1

道内の麻しん届出状況 (2006～)

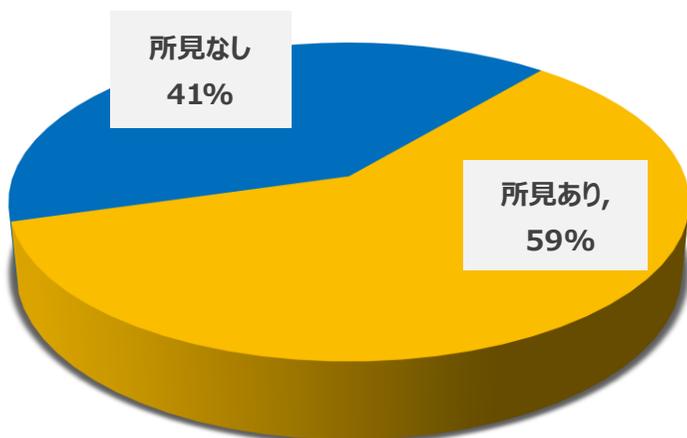
1 性別



2 年齢 (診断時)



3 コプリック斑の有無



4 感染源 (具体的状況)

- 双子の片方
- 病院に付き添い
- 兄弟姉妹・親族
- 友人・知人
- 父の弟
- 保育園、小学校、中学校、高校、専門学校、大学
- 始業式・入学式
- 高校入試
- 成人式
- 通勤中の交通機関
- 職場の同僚・顧客
- 職場の子供
- 医療機関
- 温泉・宿泊施設
- 観光地
- 雪まつり
- 寮

麻しんに関する特定感染症予防指針（概要）

概要

- 麻しんは感染力が非常に強い上、罹患すると稀に急性脳炎を発症し、精神発達遅滞等の重篤な後遺症又は死亡することがあり、国民一人一人が、予防に積極的に取り組んでいくことが極めて重要。
- 麻しんの排除状態を維持することを目標とし、国、地方公共団体、医療関係者、教育関係者等が連携して取り組んでいくべき施策についての新たな方向性を示す。

目標

- 平成27年にWHOによる麻しん排除達成の認定を受けたが、引き続き麻しんの排除の状態を維持
- 第1期及び第2期の定期接種の接種率目標(95%以上)の達成・維持

届出・検査・相談体制の充実

- 診断後ただちに届出
- 血清IgM抗体検査等の血清抗体価の測定の実施、ウイルス遺伝子検査用検体の提出
- 麻しんではないと判断された場合には届出の変更や取下げを求める
- 可能な限り、地衛研、国立感染症研究所等において、遺伝子配列の解析を行う

予防接種の推奨・その他措置

- 医療関係者、児童福祉施設等の職員、学校等職員等に対し、予防接種の推奨を行う必要
- 国内外の麻しんの発生状況や予防接種について情報提供を行うと共に、旅行会社等に対し、外国へ渡航する者に、これらの情報提供を行うよう依頼

➤ 麻しんを排除するため施策を推進

➤ 施策が有効に機能しているか評価

麻しんの発生動向、治療等に関する科学的知見、本指針の進捗状況等を評価



少なくとも五年ごとに指針の再検討を加え、必要があると認めるときは変更

第1期 麻しん風しんワクチン接種状況

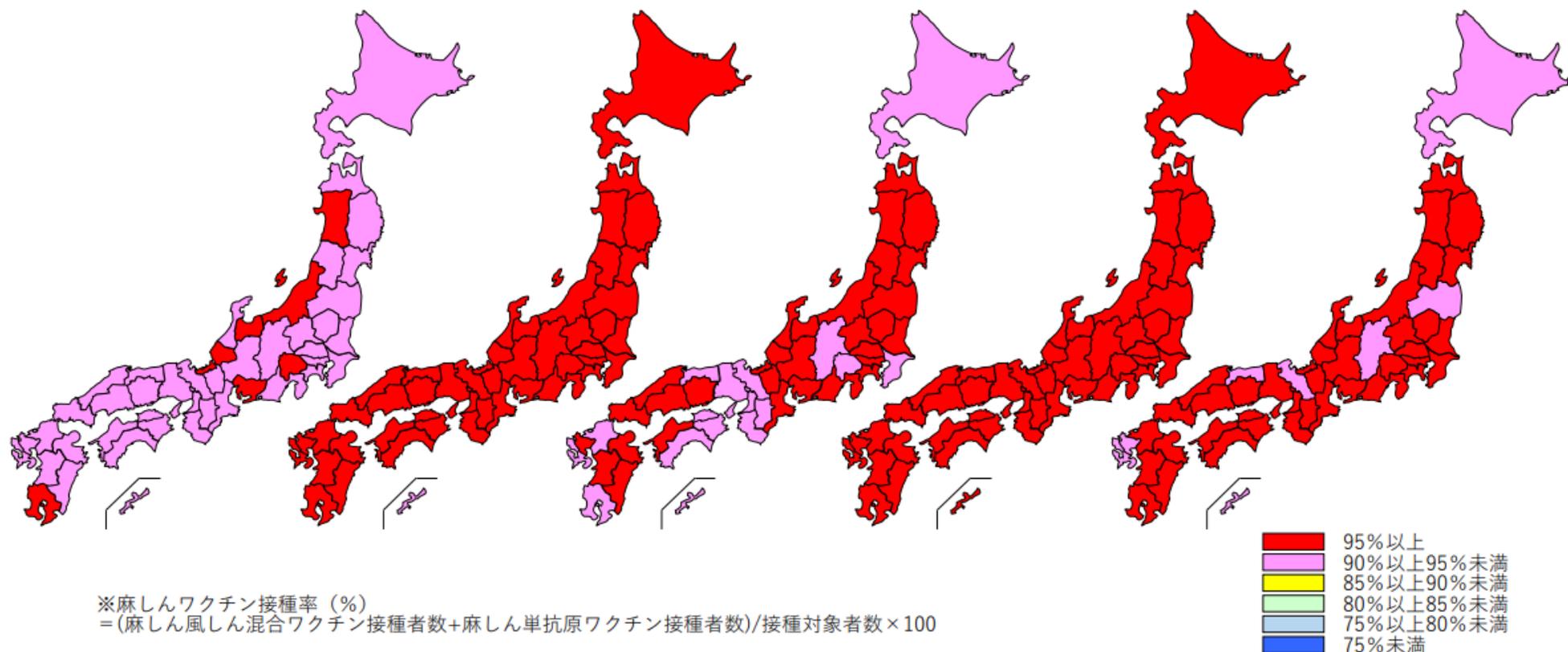
令和03年度
(2021年度)
麻しんワクチン接種率
93.5%
風しんワクチン接種率
93.5%

令和02年度
(2020年度)
麻しんワクチン接種率
98.5%
風しんワクチン接種率
98.5%

平成31年度
(2019年度)
麻しんワクチン接種率
95.4%
風しんワクチン接種率
95.4%

平成30年度
(2018年度)
麻しんワクチン接種率
98.5%
風しんワクチン接種率
98.5%

平成29年度
(2017年度)
麻しんワクチン接種率
96.0%
風しんワクチン接種率
96.0%



※麻しんワクチン接種率 (%)
= (麻しん風しん混合ワクチン接種者数+麻しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100

※風しんワクチン接種率 (%)
= (麻しん風しん混合ワクチン接種者数+風しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100

※地図は麻しんワクチン接種率に基づく色分け

第2期 麻しん風しんワクチン接種状況

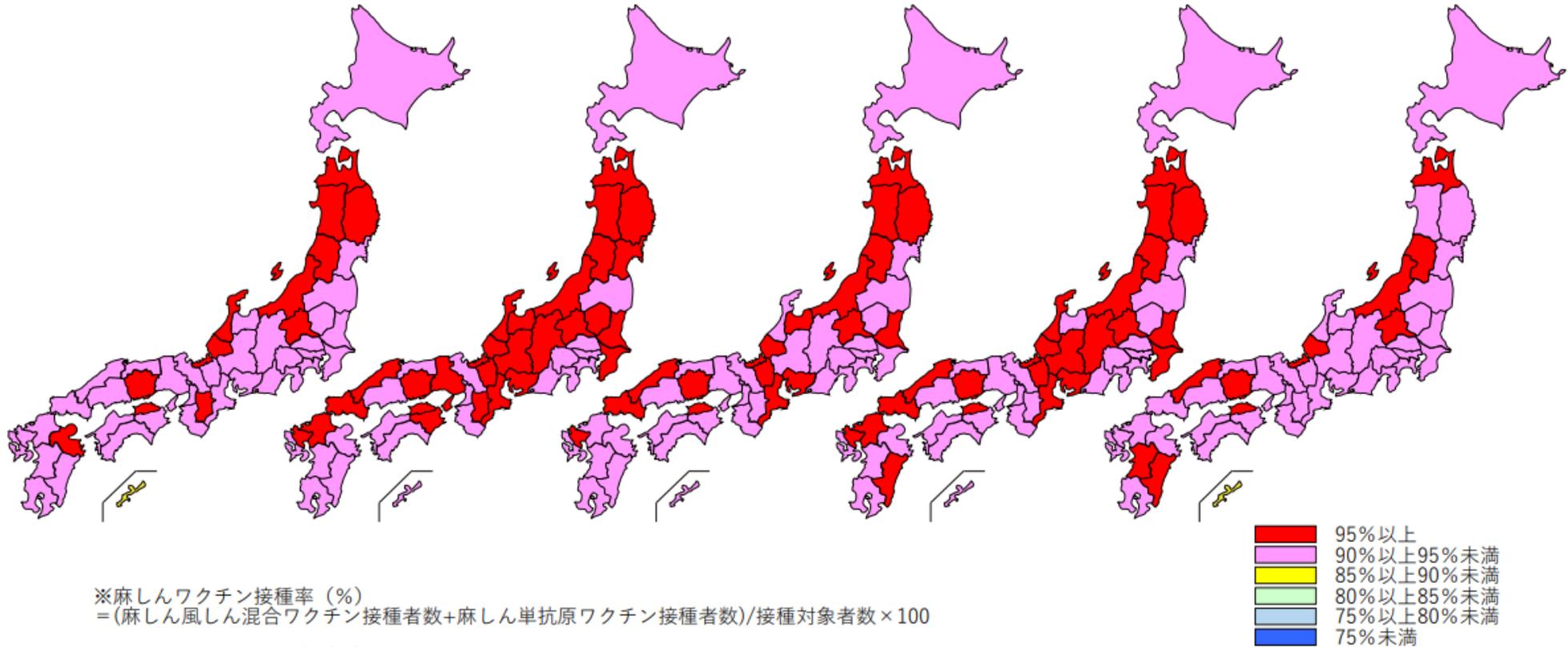
令和03年度
(2021年度)
麻しんワクチン接種率
93.8%
風しんワクチン接種率
93.8%

令和02年度
(2020年度)
麻しんワクチン接種率
94.7%
風しんワクチン接種率
94.7%

平成31年度
(2019年度)
麻しんワクチン接種率
94.1%
風しんワクチン接種率
94.1%

平成30年度
(2018年度)
麻しんワクチン接種率
94.6%
風しんワクチン接種率
94.6%

平成29年度
(2017年度)
麻しんワクチン接種率
93.4%
風しんワクチン接種率
93.4%



※麻しんワクチン接種率 (%)
= (麻しん風しん混合ワクチン接種者数+麻しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100

※風しんワクチン接種率 (%)
= (麻しん風しん混合ワクチン接種者数+風しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100

※地図は麻しんワクチン接種率に基づく色分け

麻しん対策に関する普及啓発

－ 麻しんに関する正しい知識の提供、予防に関する適切な情報提供 －

海外に行く方へ

厚生労働省

みんな目指そう
「麻しんがゼロ」

麻しん(はしか)にかかったことが明らかでない場合

海外に行く前に: 麻しんの予防接種歴を母子手帳などで確認し、2回接種していない方は予防接種を検討してください。

帰国した後: 帰国後2週間程度は健康状態に注意しましょう。

麻しんとは

世界には麻しんが流行している国・地域があります。



【出国前の注意事項】

「麻しん(はしか)」は
世界で流行している感染症です。

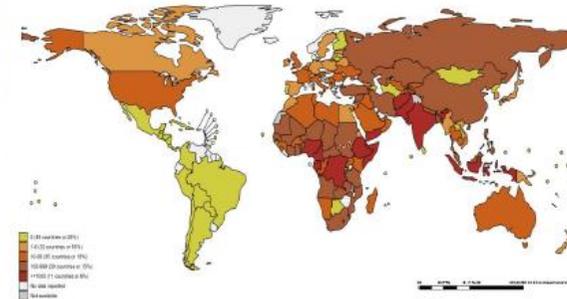
海外に行く方で、麻しん(はしか)にかかったことが明らかでない場合

海外に行く前に

- 麻しんの予防接種歴を母子手帳などで確認しましょう
- 2回接種していない方は、予防接種を検討してください

世界における麻しんの流行状況
(令和4年10月～令和5年3月)

麻しん報告数 上位10の国々	
国名	報告数
インド	68,473
イエメン	7,554
インドネシア	5,754
エチオピア	4,505
パキスタン	4,038
カメルーン	3,382
ソマリア	3,104
コンゴ共和国	2,703
アフガニスタン	2,105
ナイジェリア	1,769



出典: WHO(世界保健機関) 麻しん報告数
(令和5年5月現在、一部改訂)

<https://www.who.int/teams/immunization-vaccines-and-biologicals/immunization-analysis-and-surveillance/monitoring/provisional-monthly-measles-and-rubella-data>

詳しくはこちら

麻しんについて 厚生労働省 検索

厚生労働省

麻しんについて



2023/5/17作成